

【 玖 珠 町 】

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

- 平均正答率は67%。県平均69%を下回ったが、全国平均67%と同レベルである。
- 低学力層（正答率20%以下）の児童の割合が0.0%（県：2.9%，全国：4.2%）と極端に少ない。
- 正答率50%未満（6問以下）の割合は、14.3%（県：14.0%，全国：16.6%）であり、県平均とほぼ同じであるが、玖珠町の目標（10%未満）は、達成できていない。
- 正答率80%（11問）以上の上位層の割合は36.3%（県：43.3%，全国：41.7%）であり、全国平均より低い。また、全問正解者は1名のみであり、その割合が低い。
- 設問別正答率は、14問中10問が県平均・全国平均と同程度もしくは上回っている。
- 全国平均を大きく下回ったのは以下の3問である。
 - ・ひらがなを漢字に書きなおす問題（2問）
 - ・複数の資料を読んで理解した事柄を結びつけ、考えをまとめる力が求められる問題

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- ① 「新大分スタンダード」に基づく授業観察シートを活用した管理職の授業観察の実施
 - ・授業デザイン力の向上（単元構想力）
 - ・育成を目指す資質・能力と連動した評価規準の設定
- ② 国語科の授業における系統的な指導を充実させる。
- ③ 国語科の授業だけでなく、学校挙げて組織的に取り組む体制をつくり、継続的に取り組む。
- ④ 各校に配置している新聞等を活用して、表現の違いによる読み手の受け取り方の違いを実感させる学習活動を仕組む。
- ⑤ 「読解力」の充実に向けて、学校司書と連携して読書習慣の定着を図る。
- ⑥ デジタル教材の効果的かつ積極的な活用を図る（補充学習やchromebookの持ち帰り学習）
- ⑦ 図書館活用授業の継続的な実施。

【 玖 珠 町 】

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

- 平均正答率は、67%であり、県平均64%及び全国平均63%より高い数値となっている。
- 低学力層（正答率20%以下）の児童の割合が1.0%（県：5.1%，全国：6.47%）と非常に少ない。
- 正答率50%未満（7問以下）の割合は、15.3%であり、県平均（23.5%）や全国平均（25.7%）より少ないが、玖珠町の目標（10%未満）は、達成できていない。
- 正答率80%（13問）以上の上位層の割合は29.5%（県：32.3%，全国：30.0%）であり、やや少ない結果となっている。
- 設問別正答率は、16問中14問が県平均及び全国平均を上回り、2問が同程度であった。
- 全国平均を下回ったのは、次の1問題のみである。
 - ・三角形の面積について、底辺も高さも同じ2つの三角形の面積の大小を判断し、その理由を記述する問題。正答率は、15.2%（県27.4%，全国20.8%）と極端に低い結果であった。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- ① 「新大分スタンダード」に基づく授業観察シートを活用した管理職の授業観察の実施
 - ・授業デザイン力の向上（単元構想力）
 - ・育成を目指す資質・能力と連動した評価規準の設定
- ② 町独自で実施している算数確認テスト（年4回）に向けた継続的な取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。
- ③ 町確認テスト問題データベース（町内共有）の活用で定着を図る。
- ④ デジタル教材の効果的かつ積極的な活用を図る（補充学習やchromebookの持ち帰り学習）
- ⑤ chromebook及びその他のICT機器の積極的な活用を活かして、各学校の取組を共有化していく。

【 玖 珠 町 】

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

- 平均正答率は、64%であり、県69%及び全国70%を下回っている。
- 低学力層の生徒の割合（正答率20%以下）は3.0%（県2.7%，全国2.5%）で県・全国平均と同程度である。
- 正答率50%以下の生徒の割合は、26.1%（県15.8%，全国14.5%）で県・全国平均より多い。
- 正答率80%以上（12問以上）の上位層の割合は、33.7%であり、県平均44.5%及び全国平均46.3%に比べ10ポイント以上の差がついている。
- 設問別正答率は、17問中すべての設問で全国平均を下回った。
- 全国平均と比べ、特に大きな差があったのは、次のとおり。
 - ・「おし量って考える」⇒「押し量って…」 正答率24.0%（県39.4%，全国43.9%） 無解答24.0%
 - ・記述式の問題の正答率は、県・全国平均より8%程度低く、無解答者が目立っている。
- （例）現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く。正答率41.3%（県49.0%，全国50.0%） 条件を満たしていない解答26.9% 無解答20.2%

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- 1 基礎力の定着・向上のために
 - ① 授業におけるねらいの設定において、ICTの活用を含めて「考えるための技法」を意識して設定をする。
 - ② 学校挙げて「読む・書く」基礎技能（正確に読む・速く正確に書く等）の習熟を図る取組を引き続き継続する。
 - ③ 読解力の充実に向けて、学校司書と連携し組織的に読書習慣の定着を図る。（朝読書の継続）
 - ④ 問題データベースをさまざまな場面で活用する。
 - ⑤ AIドリル「すらら」を活用して基礎的事項の定着を図る。
 - ⑥ 教科部会を定期的に開催し、日常的に指導方法の交流・工夫改善を図る。
- 2 漢字や語句の定着のために
 - ① 国語科の授業における系統的な指導を充実させる。
 - ② 国語科の授業だけでなく、学校挙げて組織的に取り組む体制をつくり、継続的に取り組む。
 - ③ 漢字・語句に対する興味・関心を引き出し、伸ばす言語環境づくりに力を注ぐ。

【 玖 珠 町 】

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

- 平均正答率は41%であり、県平均49%及び全国平均51%を下回った。
- 低学力層の生徒の割合（正答率20%以下）は、26.9%（県19.6%、全国17.5%）と多い。
- 正答率50%以下の生徒の割合は、66.3%（県51.3%、全国48.6%）で6割を超えている。本町の学力向上に係る数値目標の一つである「学力調査において正答率50%未満の児童の割合を10%未満にする」を達成できていない。
- 正答率80%以上（12問以上）の上位層は、8.7%（県17.1%、全国19.8%）と非常に少ない。
- 設問別正答率は、15問すべて全国平均を下回る結果である。
- 「箱ひげ図」の「四分位範囲」を答える問題の正答率は、42.3%（県64.4%、全国65.7%）。数式を計算することができるだけでなく、数学的な見方や考え方で数学的な事象を捉えることが求められている。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

- 1 基礎力の定着・向上のために
 - ① 指導事項を明確にした授業づくりを徹底する。
 - ② 町独自で実施している数学確認テスト（年4回）に向けた継続的な取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。
 - ③ 問題データベースを積極的に活用する。
 - ④ AIドリル「すらら」を活用して基礎的事項の定着を図る。（持ち帰り学習課題）
 - ⑤ 定期テストを単元テストに変更し、その単元で身につけるべき事の定着を徹底させる。
- 2 正答率50%未満の層を減らすために
 - ① 授業形態の工夫や帯時間等を通して、個別指導の充実を図る。
 - ② 町確認テスト問題データベース（町内共有）の活用で定着を図る。
 - ③ 教科部会を定期的に開催し、日常的に指導方法の交流を実施する。
 - ④ 小学校からの円滑な接続を図るため、校種間連携協議会を開催し小学校との連携を強化する。
 - ⑤ 学校運営協議会が主催する「未来塾」と連携し、低位層へのフォローを丁寧に行っていく。

【 玖 珠 町 】

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

1 調査結果の分析

中学校：英語

- 平均正答率は34%であり、県平均41%及び全国平均46%を大きく下回った。
- 低学力層の生徒の割合（正答率20%以下）は、23.1%（県21.0%，全国17.0%）と多い。
- 正答率50%以下の生徒の割合は、79.7%（県67.4%，全国59.7%）で全国平均より20%多く、8割に近い結果となっている。
- 正答率80%以上（14問以上）の上位層は、1.9%（県8.2%，全国11.8%）と非常に少ない。
- 設問別正答率は、17問すべて全国平均を下回る結果である。
 - ・「聞く」問題は、6問のほとんどで全国平均と約10%程度の差がある。
 - ・「読む」問題は、7問中4問題で全国平均と10%以上の差がある。
 - ・「書く」問題は、「聞く」「読む」に比べ課題が大きい。正答率が低く、無解答が多い。
- （例）過去形の疑問文を書く問題 本町3.8%（県17.8%，全国20.9%） 無解答14.4%

2 具体的な改善方策

中学校：英語

- 1 基礎力の定着・向上のために
 - ① 言語活動を通して付けたい力を明確にした授業づくり
 - ② 町独自で実施している英語確認テスト（年5回）に向けた取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。
 - ③ 問題データベースを活用する。
 - ④ 基礎的事項の定着を図る家庭学習の課題を計画的に与え、習熟を図る。
- 2 正答率50%未満の層を減らすために
 - ① 授業形態の工夫や帯時間等を通して、個別指導の充実を図る。
 - ② 町独自で実施している英語確認テスト（年5回）に向けた継続的な取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。英語科単独ではなく、学校組織全体として取組む。
 - ③ イングリッシュ・カフェをより一層有効に活用する。
 - ④ 教科部会を定期的に開催し、日常的に指導方法の交流を実施する。

【 玖 珠 町 】

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

【基本的な生活習慣・自尊感情等に関すること】

- 「将来の夢や目標を持っていますか」に対して 78.9%が肯定的回答をしている。(全国は 81.5%)
- 学校に行くのは楽しいと肯定的に回答している児童は 89.0%で全国平均より 3.7%高い。
- いじめはどんな理由があってもいけないと肯定的に回答した児童は、97.2%（全国は 96.9%）
- 地域行事に参加していると肯定的に回答した児童は、69.7%で全国平均より 11.9%高い。

【学習習慣・授業等に関すること】

- 家で計画を立てて勉強している児童は、72.5%で全国平均より 1.8%高い。
- 読書は好きであると肯定的に回答した児童は、72.5%で全国平均より 0.7%高い。
- 学習の中で I C T機器を使うのは勉強の役に立つと肯定的に回答した児童は 95.4%で全国平均より 0.3%高い。
- 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていると肯定的に回答した児童は、86.36%で全国平均より 4.4%高い。

生徒質問紙

【基本的な生活習慣・自尊感情等に関すること】

- 「将来の夢や目標を持っていますか」に対して 74.3%が肯定的回答をしている。(全国は 66.3%)
- 学校に行くのは楽しいと肯定的に回答している生徒は 82.6%で全国平均より 0.8%高い。
- いじめはどんな理由があってもいけないと肯定的に回答した生徒は、93.6%（全国は 95.5%）
- 地域行事に参加していると肯定的に回答した生徒は、68.8%（全国は 38.0%）

【学習習慣・授業等に関すること】

- 家で計画を立てて勉強している生徒は、68.8%で全国平均より 13.8%高い。
- 読書は好きであると肯定的に回答した生徒は、68.8%で全国平均より 2.8%高い。
- 学習の中で I C T機器を使うのは勉強の役に立つと肯定的に回答した生徒は 95.4%で全国平均より 2.1%高い。
- 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていると肯定的に回答した生徒は、79.8%で全国平均より 9.9%高い。

2 玖珠町の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- 小・中学校において、授業に対して前向きに取り組もうとする姿勢の回答が多く、教職員の「新大分スタンダード」を中心にした授業改善の取組が児童・生徒に実感として伝わっている。
- 児童・生徒のほとんどが、基本的な生活習慣を身につけ、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っていることが見てとれる。
- 自己肯定感（自己存在感）を持たせるために、授業や特別活動をはじめとして、学校の教育活動全体の中で、生徒指導の3機能を生かした取り組みの充実が必要である。また、家庭や地域との連携の充実を図ることによって、児童生徒の自己肯定感を高めていく必要がある。
- 家庭での時間の使い方について、児童生徒個々の実態を丁寧に把握し、家庭と連携しながら個別に指導することと併せて、学校挙げて家庭学習の習慣化や充実を図る取組（例：家庭学習の方法の指導、家庭学習の記録やチェックの工夫、計画的・意図的な家庭学習用の課題の提示、家庭学習強化週間の設定等）、また、1人1台の **chromebook** の授業での活用や持ち帰りも当たり前の光景となってきた。今後は、内容をより充実させることによって、家庭学習の質・量ともに向上させる必要がある。
- 学校における教育活動全体を通して、児童生徒個々の表現力を向上させる取組（例：表現する中身をもたせ、説明する場を設定した授業改善、行事等における表現の場の設定と丁寧な事前・事後指導等）を充実させること、また、互いの考えを聴き合い、認め合う学校・学級の風土を創り上げていくことによって、表現力の更なる向上を目指す必要がある。
- 中学校において、数学・国語の教科が好き・大切だと思う・よくわかるという項目が軒並み全国平均より低い結果となっているので、「なぜ学ぶのか」。「どんな大人になりたいか」といったキャリア教育の側面からもアプローチをしていく必要がある。

【 玖 珠 町 】

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小・中学校：学校質問

本町においては、小学校（6校）と中学校（1校）合わせて調査対象学校数が7校と少ないため、単純に全国平均・県平均の割合と比較して特徴を述べることは難しい面があるが、主なものとして昨年度同様、以下の点があげられる。

- 全体的に見ると、肯定的な回答をした学校の割合が県・全国を上回っている項目が多い。
- 全小中学校が、ICT機器を活用した授業を積極的に行っている。小学校の端末持ち帰りも進み、中学校においては毎日持ち帰らせて家庭での利用が日常の光景となっている。
- 学校運営の状況や課題についても、全教職員間で共通理解をし、組織的な取組ができている。
- 全学校が、全国学力学習状況調査の分析結果を学校全体で教育活動を改善するために活用している。

2 玖珠町の学校質問紙調査の結果をふまえて

ほとんどの町内小・中学校全校が各質問に対して肯定的な回答をしていることなどから、各学校において組織的に取り組んでいることが見てとれる。

今後の主な課題

1 子ども一人一人を主語とする、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善

「新大分スタンダード」に基づく組織的な授業改善による授業の質の向上を目指し、児童・生徒自らが調べ、整理し、発表・交流する問題解決的な展開の授業を積極的に行う必要がある。また、1人1台のGIGA端末を含めたICT機器の効果的な活用を全町的に展開させていく必要がある。

2 家庭学習の充実に向けた学校挙げての取組の強化

学校挙げて家庭学習の習慣化や充実を図る取組を行うことによって、家庭学習の質・量ともに向上させる必要がある。デジタル教材の利活用やクラウド環境下でのChromebookの持ち帰りによる家庭学習に充実を図る。

3 学校間の連携の強化（校種間連携協議会の深化・充実）

小中および小学校間の校種間連携を深め、9年間を通して共通して指導する内容の焦点化や有効な指導方法の共有等を行うことによって、教職員の更なる指導力の向上を図っていく。さらに架け橋期の連携充実も同時並行に取り組むことで、就学前からのシームレスな接続に取り組んでいく。